

とちぎの気候

～寒暖の差が大きい内陸性気候～

転勤等で本県に来られた方が一番に驚くのが、冬の冷え込みと夏の雷ではないでしょうか。気象統計から本県に特徴的な指標を挙げてみます。

冬の気候について、宇都宮の1月の最低気温を平年値でみると、ほぼ同緯度に位置する水戸、前橋、金沢と比較して低く、寒さが厳しいことがわかります。また、朝の冷え込みも厳しく、霜の降りる初日は秋田・仙台より早く、終日は札幌よりも遅くなっています（表1・2）。さらに、「男体おろし」などと呼ばれる季節風が強く吹き晴天が続くため、冬の日照時間は全国3位の長さである一方、降水量は全国46位と際立って少なくなっています。

また、気温の年較差は、全国6位と大きくなっています（表3）。上位を占めているのは、宇都宮を含め海に面していない内陸の都市がほとんどで、同緯度の水戸、前橋、金沢と比較しても寒暖の差が大きいことがわかります。

冬の霜と厳しい寒さは、日中の南寄りの風や朝夕の強い北寄りの風に比べ、夜間は北寄りの風が弱く晴天の日が多いため、放射冷却現象が起き易いことが背景にあります。

栃木といえば有名な雷は、発生日数を年計でみると全国9位です。全国順位は思いの外低い気がしますが、これは、冬季の雷が多い日本海側の都市が上位を占めるため、夏季に限ると1位となります。

夏の雷は、県北西部から南東方向に広がっている斜面が、日中の強い日射を受け加熱され、南寄りの谷風と呼ばれる上昇気流が発生し雷雲を発生させる「熱雷」と呼ばれるもので地形と風向きの関係が影響しています。冬の冷たい季節風と暖かい対馬海流からの水蒸気が基となり、日本海側で発生する「冬季雷」と発生原因が異なります。

このような本県の気候の特徴を理解し、これを上手に活かした快適な生活を心掛けたいものです。

指標名		指標値	順位	全国
1	気温の年較差（8月の日最高気温と1月の日最低気温の両平年値の差）	33.6℃	6位	30.3℃
2	日照時間の月別平年値（12月～2月）	587.5 h	3位	399.5 h
3	降水量の月別平年値（12月～2月）	99.2 mm	46位	227.7 mm
4	雷日数の月別平年値（年計）	24.0日	9位	17.1日
5	雷日数の月別平年値（6月～8月計）	14.3日	1位	7.7日

※1～5平成20年理科年表（国立天文台編）

表1 霜の初日の平年値

(1971年秋～2000年春平均値)(上位)

順位	地点	初日(月/日)
1位	盛岡	10/18
2位	札幌	10/22
3位	青森	10/23
4位	山形	10/24
5位	長野	10/26
6位	宇都宮	10/28
9位	仙台	11/6
9位	秋田	11/6

表2 霜の終日の平年値

(1971年秋～2000年春平均値)(上位)

順位	地点	終日(月/日)
1位	盛岡	5/4
2位	山形	5/2
3位	青森	5/1
4位	長野	4/28
5位	宇都宮	4/27
6位	札幌	4/24
7位	秋田	4/17
9位	仙台	4/14

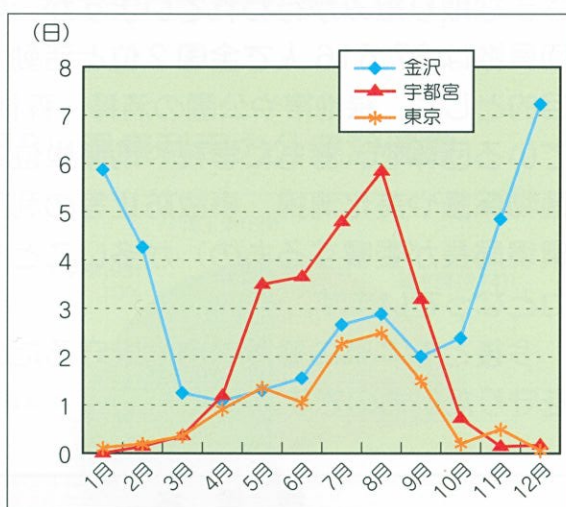
表3 気温の年較差の大きい地点

(1971年～2000年の平均値)(上位)

順位	地点	(℃)	最高	最低
1位	長野	34.8	30.5	-4.3
2位	甲府	34.7	32.0	-2.7
3位	盛岡	34.0	28.1	-5.9
4位	札幌	33.8	26.1	-7.7
5位	山形	33.8	30.2	-3.6
6位	宇都宮	33.6	30.1	-3.5
10位	前橋	32.0	30.9	-1.1
11位	水戸	31.9	29.4	-2.5
24位	金沢	29.6	30.4	0.8
31位	東京	28.7	30.8	2.1

図1 雷日数の月別平年値

(1971年～2000年平均値)



※ 平年値とは、西暦年の1の位が1の年から連続する30年間の観測値を平均した値であり、気象庁では10年ごとに更新します。

トピックス

－ 気候に合った農業 －

- ・ 日平均雲量8.5以上の日数(曇りの日)の月別平年値を4月～6月の3ヶ月計で見ると全国2位と曇天が多くなっています。これは、25℃以上の高温と乾燥を嫌う二条大麦(全国2位)や六条大麦(全国2位)の栽培に適しています。
- ・ 本県は、言わずと知れた「いちご」の生産日本一。いちごの促成栽培に係る花芽分化を促進するため、夏冷涼な県西北部(戦場ヶ原、鶏頂山等)で苗を育てていました。(今は平地で冷蔵庫を利用するのが主流となっています。)
- ・ 雷が多いと豊作になるという説も。落雷とともに雲の中に含まれるアンモニア成分が地面に届くからと言われています。

※ 栃木農林水産統計年報